

思川開発事業監理協議会資料

平成30年3月16日

独立行政法人 水資源機構

事業進捗状況(平成30年3月時点※)

※見込みのため、数値が変更となる場合があります。

○ 平成29年度予算額 25.4億円(累計 約912億円※ 進捗率約49%)

※累計額は、平成27年度までは精算額、平成28年度は予算額。

補償基準他	H13.12 損失補償基準妥結・協定書調印				
用地取得(南摩ダム) (372ha)	99%(371ha)				
用地取得(導水路) (3.159ha)区分地上権設定含む	100%(3.159ha)				
家屋移転(80世帯)	100%(80世帯)				
代替地造成	100%(31世帯)				
県道改良(約13.2km)	100%(13.2km)				
付替県道(約6.4km)	72%(4.6km)				77%(4.9km)
付替林道(約24.4km)	7% (1.6km)	15%(3.7km)			
ダム本体及び関連工事	仮排水路トンネル (H23.3完成)	基礎掘削	ダム本体工	管理設備	試験湛水
導水路、送水路 及び関連工事	黒川取水・放流工 大芦川取水・放流工	黒川導水路 大芦川導水路	南摩注水工	送水路	南摩機場

完成
契約

完成
契約

完成：工事が完成した道路延長比(未供用を含む。舗装、付帯設備の未施工を含む)
 契約：工事を契約した道路延長比

工事実施状況

④ 付替県道5号橋工事 (H29.12竣工)



③ 付替県道6号橋工事 (H23.10竣工)



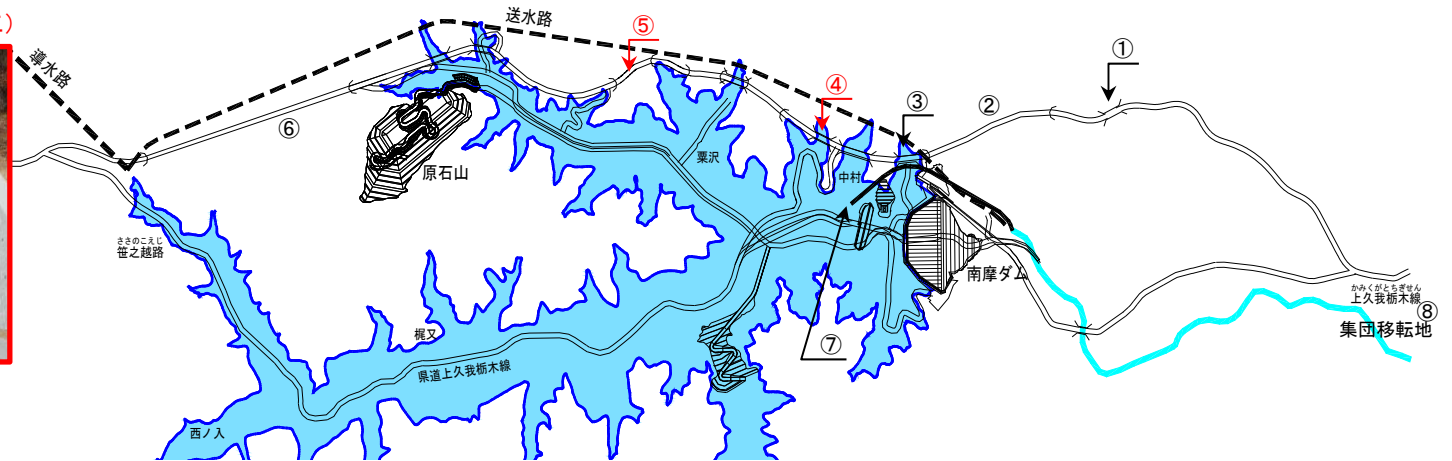
② 付替県道4号トンネル工事 (H28.3竣工)



① 付替県道7号橋工事 (H25.8竣工)



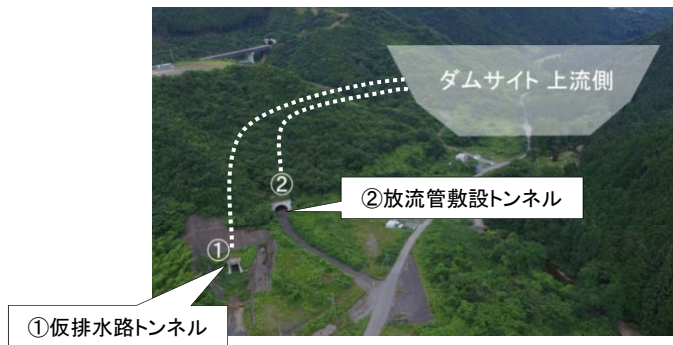
⑤ 付替県道2号トンネル工事 (H29.12竣工)



⑥ 付替県道1号トンネル工事 (H24.8竣工)



⑦ 仮排水・放流管敷設トンネル呑口 (上流側坑口) (H23.3 竣工)



⑧ 集団移転地



H29年度実施概要

項目	主な内容
工 事	板荷引田(松坂)トンネル付帯設備等工事(栃木県委託)
	付替県道工事 5号橋上部工工事、2号トンネル工事、粟沢7工区その2工事 等
	付替林道工事 和田6工区他工事、西ノ入1工区他工事、笹之越路4工区他工事 等
業務等	地質調査、水理水文調査、環境調査、用地補償 等

(1) 工 事

1) 板荷引田(松坂)トンネル付帯設備等工事 (栃木県委託)

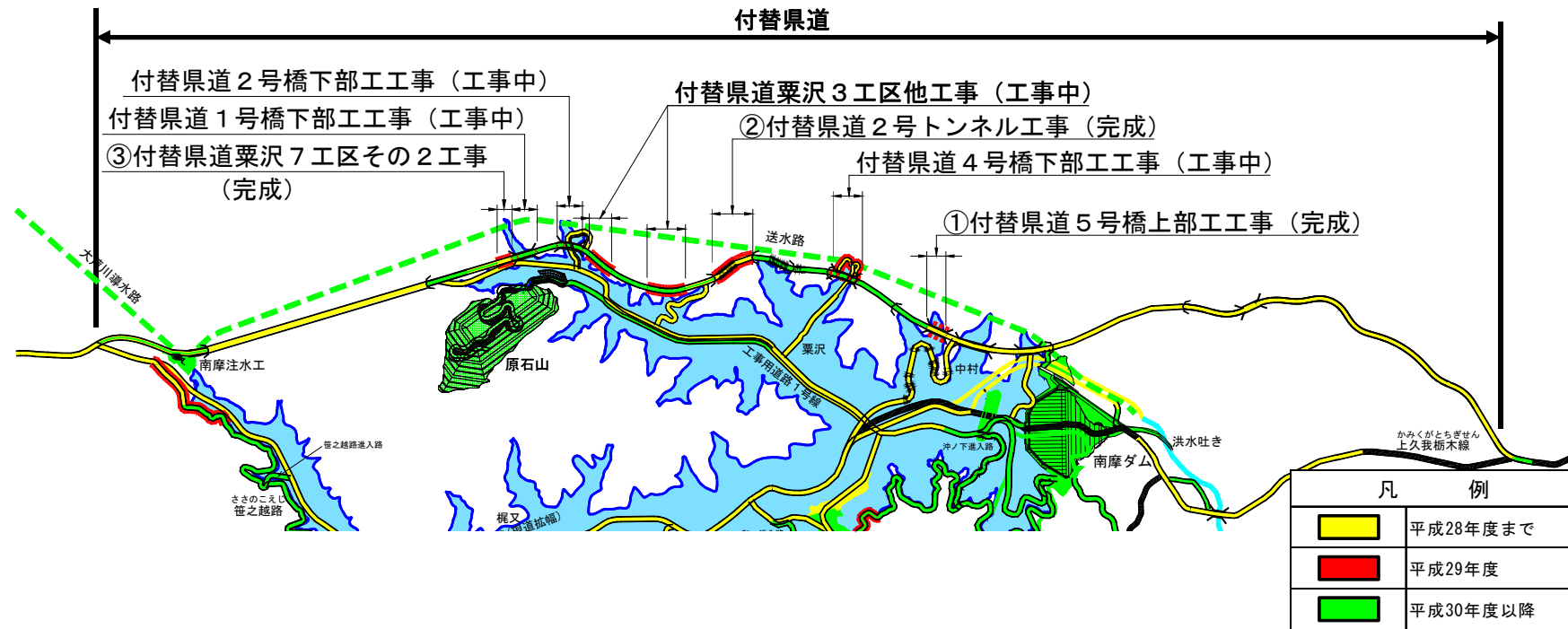


完成 (板荷側)
(平成29年11月)



完成 (引田側)
(平成29年11月)

2) 付替県道工事



③ 「付替粟沢7工区その2工事」



完成
(平成29年12月)

② 「付替県道2号トンネル工事」



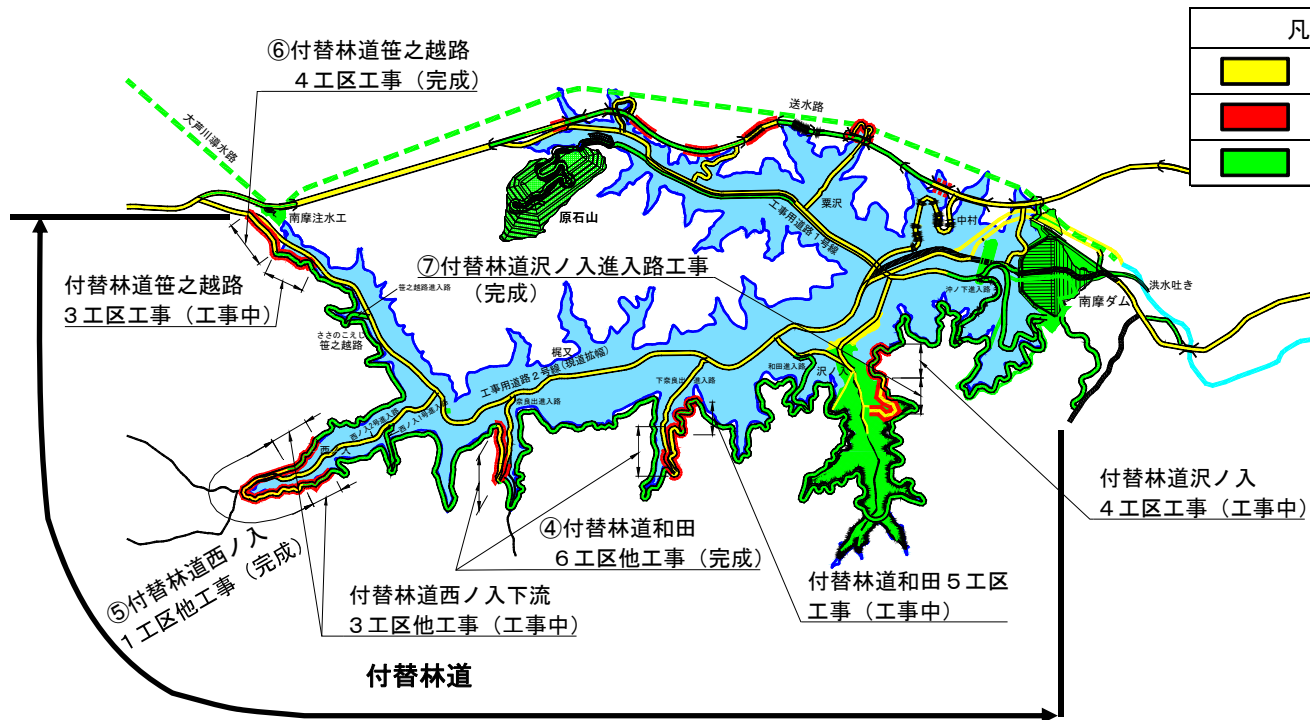
完成
(平成29年12月)

① 「付替県道5号橋上部工工事」



完成
(平成29年12月)

3) 付替林道工事



⑦「付替林道沢ノ入進入路工事」



完成
(平成30年3月)

⑥「付替林道笹之越路4工区工事」



完成
(平成30年3月)

⑤「付替林道西ノ入1工区他工事」



完成
(平成30年3月)

④「付替林道和田6工区他工事」



完成
(平成30年3月)

(2) 業務等

①流量観測

・ダム・導水路計画に必要な水文データ蓄積のために河川の水位・流量観測を行い、河川流況の基礎資料を収集するもの。



②地下水位等観測

・ダム本体工事、導水路工事に伴う地下水(井戸水)・沢水等への影響を検討するための基礎資料を収集するもの。



③自然環境調査（貯水池内）

・思川開発事業の事業区域およびその周辺を対象として、動植物調査を継続的に実施することにより、自然環境への影響把握を行うとともに、付替県道工事などに対する環境保全対策の検討・立案のために必要な調査を行うもの。



④貯水池ボーリング調査等

・貯水池周辺法面のボーリング調査を実施するとともに、地質解析を実施するもの。



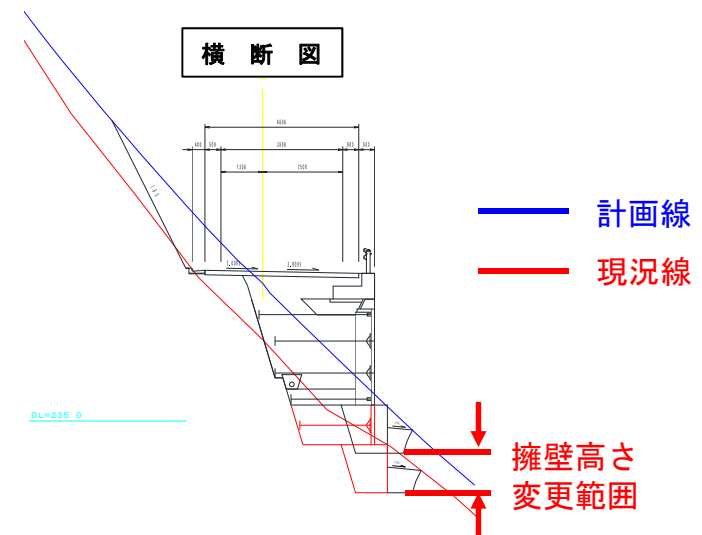
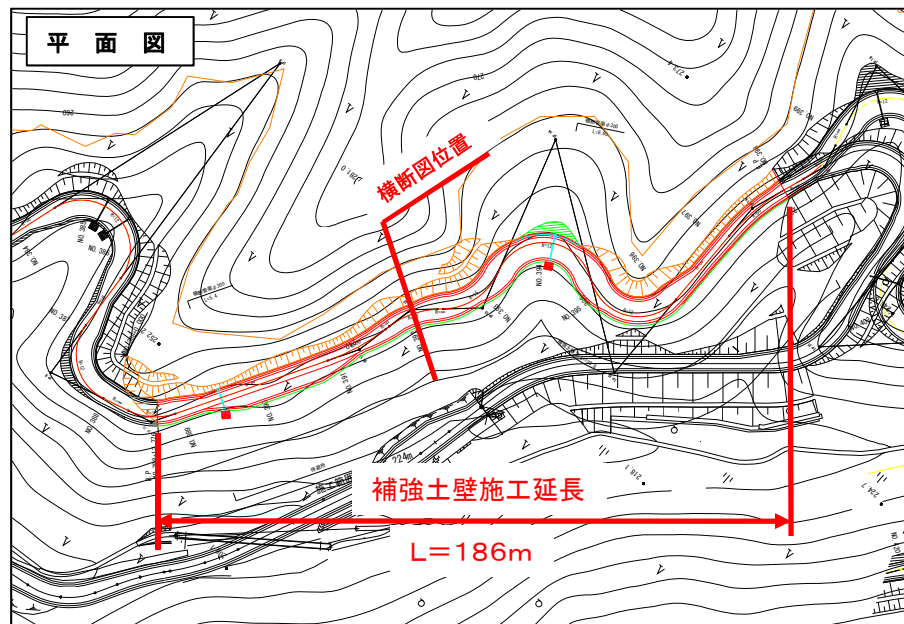
工事②【コスト増】付替林道工事の擁壁高さ変更による増について

コスト増・・・補強土壁の擁壁高さ変更による増
(22百万円 増)

工事名：付替林道和田6工区他工事

- ・補強土壁の施工において、岩盤線が想定よりも深かったため、擁壁高さを変更となりコスト増となった。

擁壁基礎部床付状況



工事③【コスト減】付替林道工事の線形変更による縮減について

コスト減・・・道路線形変更による減
(13百万円 減)

工事名：付替林道西ノ入1工区他工事

- ・ 事前測量の結果、設計の地山線と現況の地山線との違いが判明した。当初線形のままで新たに擁壁が必要となるため、道路線形を見直すことで擁壁施工を取り止め、コスト縮減を図った。

